

群大2年ぶり 修練施設認定

済生会病院も新規に

群馬大医学部附属病院（前橋市）が、高難度の手術を担うための日本肝胆膵外科学会の「修練施設」に2年ぶりに認定され、学会が近く公表する見通しであることが13日、分かった。同病院は、腹腔鏡などの手術を受けた患者が相次いで死亡した問題の影響で認定を取り消されたが、その後の医療安全への取り組みが評価された。

修練施設は、肝胆膵（肝臓、胆道、膵臓）のがん手術で高い技術がある医療機関で、専門医を育成する役割を担う。認定のためには手術実績のほか、指導医や専門医が常勤するなど教育体制が充実していることも必要となる。

群馬大病院は問題発覚後、2015年4月に旧第1、第2外科を統合し、外科診療センターを発足。肝胆膵外科診療科長に、九州大

大学院准教授だった調査氏が就任し、手術の安全性向上や組織のガバナンス（統治）強化を進めてきた。一方、学会は群馬大病院と同時期に済生会前橋病院（前橋市）も修練施設として

認定し、近く公表される見通し。同病院は昨年、90例の高難度の肝胆膵手術を手掛けていた。県内ではほかに、前橋赤十字病院も修練施設に認定されている。

農地賃貸、売買
太陽光許可済農地買い取ります
 農地専門会社 **ジー・ティー・ディー**
群馬県知事 (4) 6213
 伊勢崎市八坂町6-30
☎0270-20-1818
 農地、山林、池、沼、原野、雑種地

2017年7月14日
2017年7月15日
上毛新聞掲載

群馬大病院など 修練施設認定

肝胆膵外科学会

日本肝胆膵外科学会は14日、高難度手術を行う技術を有し、専門医を育成する「修練施設」として、群馬大医学部附属病院（前橋市）

を認定したと公表した。群馬大病院は手術死問題の影響で2015年に認定を取り消された。学会はその後の改革を評価し、安全性向上に継続して取り組み、安全を条件に再認定した。県内関係では済生会前橋病院（同市）が新規に認定された。